

2022 年度夏学期・前期（後半）における授業形態について

九州大学 経済学部・経済学府

1. はじめに

これまで経済学府・学部では、部局内での新型コロナウイルス感染症（COVID 19）の感染を防止しつつ教育サービスの水準を維持するために、充実したオンライン授業と対面形式の授業を併用してきました。今後も本学部・学府の授業は、引き続き両者の時宜に適ったベストミックスを追求しながら提供してまいります。

そこで、2022 年度夏学期・前期（後半）の経済学部・学府の授業については、対面受講の機会をできるだけ確保するために対面／ハイフレックス授業を基本としつつ、授業の特性や受講生の状況などに応じて、担当教員の判断により適宜、オンラインでも実施することとします。なお、学生がその意に反して対面での授業参加が強要されることはありません。

2. 基本的な考え方

ウィズコロナ型の授業運営を基本方針とします（ゼロコロナは目指しません）。そのため、起こり得るリスク水準を想定し、受容可能なリスクと受容不能なリスクを峻別して、受容不能なリスクの回避を目指します。新型コロナウイルス感染症について経済学部・学府が想定するリスク水準は、下記の通りです。

リスク水準	方針
1. 学生ないし教員に軽症者／無症状者が発生	受容(できる限り低減)
2. 感染クラスターが発生(軽症、重症問わず)	回避
3. 学生ないし教職員およびその家族に重症者が発生	回避

対面授業を行う以上、一定程度の軽症者／無症状者が出るのはやむを得ないものとしませんが、可能な限りそのリスクは低減することとします。一方、クラスターの発生や、授業が原因となって学生ないし教職員およびその家族に重症者が出る事態は受容できません。そこで、この受容不能リスクを回避する手段をとります。具体的には下記の措置を講じます。

- ・対面受講者の人数は教室の収容定員の 2/3 以下とする。
- ・新型コロナウイルス感染の予防措置を十分に取る。(ただし、感染自体は発生し得る)
- ・感染発生後に感染を広げないための対応を強化する。
- ・本人や家族に重症化リスクがある学生はオンラインで受講する。

段階	安全策	学生の対応
予防対策	(1) リスクを教室に持ち込まない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体調不良、濃厚接触の疑い → 1週間オンライン受講 ・ 重症化リスクがある学生 → オンライン受講 ・ 講義外での飲食：九大行動指針を遵守
	(2) 教室の中でリスクを広げない	<ul style="list-style-type: none"> ・ マスク着用、手指消毒など ・ 静かな会話、至近距離での会話の回避
感染者発生時の対応	(1) 感染確認時の速やかな報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 速やかに専用フォームで学務課へ連絡（電話等も可）
	(2) 直近2週間で20名以上の感染者 → 全面オンライン授業へ移行	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学務課から連絡 ・ 全科目を2週間全面オンライン化 ・ 3週目から対面／ハイフレックス授業を再開

3. 予防対策

(1) 教室にリスクを持ち込まない

体調不良（の兆候）や濃厚接触（の疑い）のある場合、たとえ自分では大丈夫だと思ったとしても、**他者の感染を防ぐために対面授業には参加せず**、オンラインで受講してください。これは公衆衛生上の観点から登校停止を求めるものです。したがって、そのような学生の学ぶ権利は大学として必ず保証します。

なお、基礎疾患があるなど、本人のみならず家族も重症化リスクがある場合にも、オンライン受講を選択してください。

感染した場合、体調が回復するまで十分待ってから対面授講を再開してください。感染後の療養期間は、地元自治体の方針に従ってください（福岡市の方針については下記を参照）。

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/hofuku/coronataisaku/health/corona-ippanmuke.html>

また、会食等の講義外での行動については九州大学の行動指針を遵守してください。

https://www.kyushu-u.ac.jp/f/47843/guidance_20220425_ja.pdf

(2) 教室でリスクを広げない

対面授講の際にはマスクの常時着用（不織布マスク推奨）や手指の消毒など、基礎的な感染対策を徹底してください。また、教室内でのディスカッションやグループワークは感染拡大のリスクを伴いますが、ゼミや演習科目では必須の要素（醍醐味）でもあります。そこで、感染を防ぐため、学生間で適度な距離を保って静かな会話を心掛けてください。

4. 感染者発生時の対応

(1) 感染確認時の速やかな報告

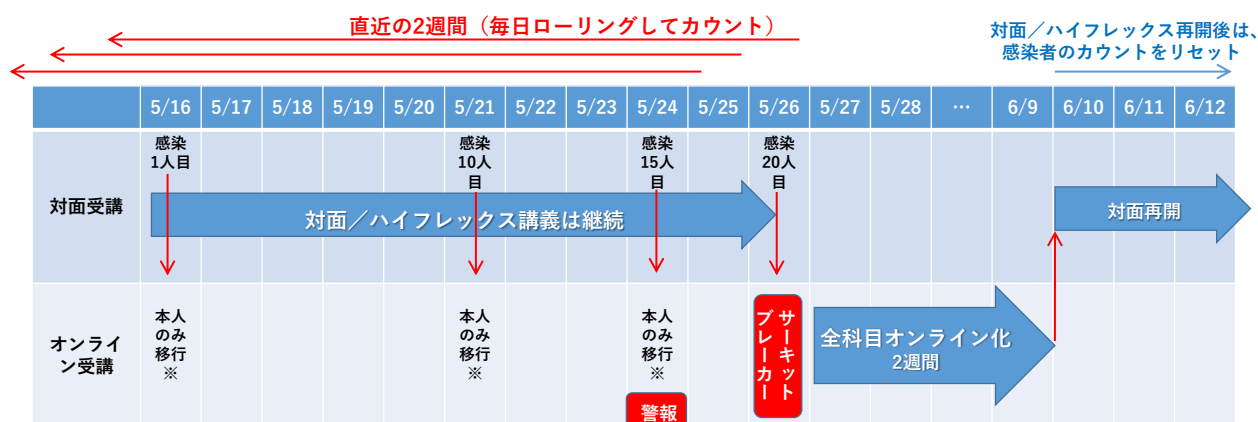
ウイルスが変異を続ける中、いつでも誰でも新型コロナに感染する可能性があります。自身の感染が確認されたら、経済学部 HP に掲載している専用フォームから速やかに学務課に連絡してください（学生本人が連絡できない場合は、家族からの電話等での連絡も可）。

<https://forms.office.com/r/Gr18ajDnAC>

(2) 直近の2週間で20名以上の感染者が出た場合は、全科目を全面オンライン化

感染が確認された学生は、対面授業への参加を停止します。対面授業への復帰は、療養期間が明けてからにしてください。また、担当教員が感染・濃厚接触した場合は、当該授業を当面オンライン化するものとし、その間、他の授業は対面／ハイフレックスを継続します。

受容不能リスクが高まったと判断される場合には、サーキットブレーカーを発動します。具体的には、経済学部・学府における直近2週間の累計感染者（学生、教員、TA）が **15名** に達した時点で警報を発し（学生ポータルで通知）、**20名** に達した場合、翌日から全科目を全面オンラインで行うものとします。全面オンラインの期間は2週間とします。



※感染後は、一定の療養期間を置いて対面授業に復帰。
療養期間については、地元行政の指針に従ってください。

- 累積感染者数が15名に達した時点で警報を発令し、学生ポータル等で周知します。
- 累積感染者数が20名に達しない場合でも、授業等での感染クラスターの発生が確認されれば、全面オンラインに移行します。

2

5. 対象となる科目

経済学部・学府が提供するすべての科目を上記措置の対象とします（産業マネジメント専攻については別途定めます）。対面／ハイフレックスで実施する科目については、それに対面参加できない特別な事情のある受講生がいるか否かにかかわらず、原則として授業を録画あるいは録音したものを Moodle 等を通して提供します。

なお、対面授業は時間割で割り当てられている教室（研究指導の場合は研究室等）で行うものとしませんが、受講者数によっては、学期途中であっても、教員・学生・院生相互間の距離を十分確保できるように、より広い教室に変更するなどの措置をとることもありますので、お知らせには注意してください。

6. 実施の際の留意点

対面授業は、以下の点に留意しつつ実施されます。

- (1) 原則として当該科目の受講生数が最大収容人数の 2/3 以下となるように教室を割り当てます。教室のキャパシティの 2/3 を超える受講者がいる科目で対面授業を実施する場合には、たとえば「半数対面参加・半数オンライン参加」を隔週で交代するなどの措置を講じるものとします。
- (2) 対面授業実施の有無や回数については、担当教員が総合的な観点から判断します（そのため、すべての回の授業がオンラインのみで実施される場合もあります）。授業の実施形態については、各科目の担当教員が Moodle やシラバス等でお知らせします。
- (3) オンライン授業と対面授業が同一日に連続するケースも想定されますので、大学でオンライン授業を受講する場合には、原則として時間割で当該科目に割り当てられている教室で受講するものとします（教室の割り当てがない科目については担当教員等からの指示に従ってください）。ただし、過密を回避するために、別途、自習室も確保し、Campusmate にてお知らせします。
- (4) 自身の健康上の理由、高齢あるいは基礎疾患を有する家族への配慮等、事情により対面授業への参加を希望しない学生・院生については、意志に反して対面参加が強制されることはありません。また、それにより成績評価が不利になることもありません。
- (5) 教室や自習室でのオンライン受講の際には、各自で PC とマイク（機能）付きヘッドセットを持参することを求めます（感染予防の面から、原則として大学から学生への貸し出しは行いません）。ただし、ヘッドセットの取り扱いは、産業マネジメント専攻以外の経済学部・学府の授業では、担当教員の方針に従ってください。

以上